

フューチャーフラワー基金支援拠点建設実施計画案

2017年1月31日

提案事業名	フューチャーフラワー基金の支援拠点「交流の家・マイディ」建設計画
総事業費予定額	500万円
寄付金目標金額	270万円
寄付金募集期間	第3弾：2017年2月末まで
所在地等	宮城県仙台市宮城野区榴岡 1-7-8 ADビル1F カトマンドゥ内 事務局 TEL 022-256-7851 FAX 022-256-7851 理事長 アリアル サンジブ 090-6451-9617 事務局長 鈴木 涼子 E-mail japanxnepal@gmail.com ウェブ http://japanxnepal-club.com/
寄附金の受付	<p>✿ 一口1万円～(任意)。十口以上の寄付をいただいた方にはオープニングセレモニーへご参加いただけます(日本からの旅費は各自、施設までの交通費と滞在費はこちらで負担いたします)</p> <p>✿ 「ワンコイン協賛金ボックス」を置いて職場やお店でPRをお手伝いしてくださる方も募集しております! 詳しくはお問い合わせください。</p>
寄付受付口座	仙台銀行 仙台東口支店 普通 4616571 「日本・ネパール文化交流倶楽部 代表 アリアル サンジブ」

① フューチャーフラワー基金について

- 就学支援事業「フューチャーフラワー基金」では、ネパール社会の“底辺”の人々への教育普及と交流を目的に、これまでネパール農村部の約6か所172名(2016年10月現在)の小中学生を1対1で就学支援してきました。
- 年に2回日本で募集した支援を直接届けていますが、子供たちの家々が離れているため、現地の女性スタッフが支援金を個別に届ける際や、日本からのスタッフが視察する時など、安全に且つ不便なく滞在する場所が現在ありません。

② 「交流の家・マイディ」の使い道について

- 就学支援スタートの地として理事長が生まれ育った地元であるマイディ村に拠点を建設するための費用です。
- 学校を卒業した若者が余裕をもって地元で暮らしていけること(新しい仕事を生み出し現金収入となる雇用の創出)を目的とした新たなプロジェクトを考える場(会議室)、視野を広げる交流の時間、職業訓練や商品開発の為の作業場も併設します。
- 途上国に慣れていない滞在者でもあまり無理なく、ある程度快適に、ネパール山村での宿泊を楽しめる設備を整えます(駐車場、フェンス、インターネットサービス、ガスコンロ、自炊場、温水シャワー、水洗トイレ、風呂、個室、花・野菜・ハーブガーデン等)。

③ 拠点完成後期待できること

- 事務所としてだけでなく、ゲストハウスとして宿泊施設も兼ね、外国人に「美しい、本当

のネパール」を体験してもらえらることとなります。

- 頼る者が無い立場の人々（シングルマザー、障がい者、両親のいない若者など）を雇用し自立を促す機会を作ります。
- 日本からこれまでより多くの支援という善意を、本当に必要としている子供たちに安全に届けることで、長期的な貧困の改善が期待できます。
- 都会育ちで田舎を知らないネパール人が、我々の活動を通して農村の暮らしに直接触れることで、母国の現状をより理解し、自分たちの問題として解決策を考えたり、ボランティアやスタッフとして関わるきっかけを作ります。
- 長期滞在者や教育を受けたネパール人などが、読み書きの出来ない村民に語学セミナーや農業指導、その他技能訓練などを行うことで、格差の解消と全体のレベルアップが期待できます。
- またフューチャーフラワー基金で教育を受けた若者を継続的にサポートし、出稼ぎに行かずとも成功するモデルケースを数多く生み出すことで、より広く農村部の子供達や親に教育を浸透させる効果が期待できます。

④ 達成したい目標とスケジュール

目標金額	270万円 (賛同者は個人・法人・団体問わず)
総事業費予算額(予定)	500万円(管理費1年分込み)
建設費	280万円
その他の経費	220万円
1月現在の進捗状況	1. 建設用に広さ約300坪の農地を確保 2. 協賛金230万円
今後のスケジュール予定	1. 業者選別・見積もり決定：2016年11月～12月末 2. 発注・外装工事スタート：2017年4月 3. 理事による現地視察：2016年11月と2017年3月 4. 内装工事・家具購入：2017年7月～10月 5. 最終確認・完成式準備：2017年10月～11月 6. オープン：2017年11月

⑤ ネパールという国、日本との関係

- ネパール連邦民主共和国。南アジアにあり、ヒマラヤ山脈（チベット）を北に、インドを東・西・南の三方に接する内陸国。主産業は農業やヒマラヤ観光などの観光業。
- 輸出入ともに60%以上をインドに頼っていて、2015年の大地震後の深刻な燃料危機もネパール新憲法に反対するインドによる国境封鎖によるものでした。
- 後発開発途上国であり、就業人口の約7割が農業に従事し、小規模農家が米、小麦、トウモロコシ、ジャガイモ、麻などを主に作っています。熟練労働力は著しく不足しています。
- 国民の大半は1日1ドル以下（自給自足や日雇い）で暮らすほど貧しく、政府もすべてにおいて外国からの経済援助に頼らなければいけない状況です。主に農村部の貧しい地域であればあるほど、識字率や子供の就学率は低く、経済だけでなく教育格差も深刻化してい

ます。

- 日本とネパールは国交樹立 60 周年を迎え良好な関係で、親日家が多いことでも有名です。ネパールを訪れる日本人にはリピーターが多く、近年ネパールから憧れの国として日本への留学生も増えています。
- 国内の雇用が極端に少ないため、短期的な視野で出稼ぎに出て命を落としたり、学位や技能を身に付けてもそれに見合った仕事が無いため移住してしまうなど、若者の流出が問題になっています。

⑥ 交流拠点を建設するダディン郡、マイディ村とは

- ネパール中部、首都から約 80km に位置するダディン郡にある山岳地帯の農村の一つ。
- ネパールの大半の山村と同様、マイディ村も教育を受けられず若いうちに結婚させられ親になり、農業や日雇いの生活を送る村民で構成されています。痩せた土地で手作業といった原始的な農法である為、未だ多くの家庭では子供の教育どころか一家全員が一日に必要な食物を摂ることも難しい状況です。
- 銀行、舗装道路、水道、郵便などのインフラが未整備で、ゲストハウスやレストランといった産業が全くありません。
- 美しい山々や動植物に囲まれ、自然のリズムに逆らわず調和した暮らしの中に、貧しいながらも素朴でホスピタリティーにあふれるネパール国民が暮らしています。現金収入に頼らない、物々交換や地域や家族の支え合いといった先進国とは違った“価値観”が体験できます。



マイディ村からの雄大なヒマラヤ山脈の眺め



マイディ村で採れるヒエ。粉に挽きパンや地酒を造る。そのほかに米、小麦、大豆、トウモロコシ、麻などが主要な農産物



マイディ村の子供達と民家。

子供達は遊ぶのも勉強も外が当たり前。毎日の登校前と帰宅後には家の仕事を手伝う。